

太陽の城跡地の活用について

最終案

- 1 市民意見聴取の結果・・・・・・・・・・ 1 ページ
- 2 意見整理マンダラート・・・・・・・・・・ 2 ページ
- 3 市民意見聴取を踏まえた新たな方向性 ・ 3 ページ

総合政策部企画課

<最終素案(令和3年11月15日公表)からの変更点>

- 1 現行計画の内容を追加 [4ページ]
- 2 アップグレードの視点を一つ追加 [5、10ページ]
- 3 新たな方向性で取り組んでいくことを契機に
当面の間、使用する場の名称を追加 [12ページ]
- 4 大屋根の半屋外空間の例を一つ追加 [13ページ]
- 5 施設の利用シーンのイメージスケッチを追加 [14、15ページ]

※2、3は専門家意見聴取(令和3年11月20日実施)を踏まえての変更

【全体】

実施方法	人数
意見聴取	1,346
アンケート	1,489
計	2,835

【意見聴取】

手法	開催回数	参加人数
団体依頼型	22	1,029
団体公募型	11	193
専門家	1	4
ほっとミーティング	1	84
議会全員協議会	1	36
計	36	1,346

【アンケート】

実施場所・方法	回答数
パネル展来場者	73
Web(あいち電子申請システム)	162
eモニター	68
市民団体実施アンケート	1,186
計	1,489

※聴取先の団体(聴取した順に掲載)

岡崎青年会議所、私立幼稚園連盟、岡崎肢体不自由児・者父母の会(父母の会)、岡崎市聴覚障がい者福祉協会(岡聴会)、岡崎市身体障がい者福祉協会(身障会)、岡崎地域精神障がい者家族会(せきれい会)、岡崎市手をつなぐ育成会、岡崎市障がい者福祉団体連合会、岡崎市観光協会、私立保育園連合会、7町・広域連合、岡崎商業高校、美川中学校、岡崎華道連盟、あったか岡崎市政の会、岡崎市青年経営者団体連絡協議会、岡崎年金者組合、地元町内会(明大寺本町第一、久後崎二区)、校長会、まちづくりマイスター、愛知産業大学、ONE RIVER、新日本婦人の会岡崎支部、岡崎市民合唱団、市民の声おかざき、附属中学校、竜海中学校、緑丘学区総代会、岡崎トーク、私立幼稚園PTA連絡協議会、岡崎政経同友会、議会全員協議会

※パネル展実施結果

南部地域交流センター「よりなん」	6/30~7/4
北部地域交流センター「なごみん」	7/14~7/18
東部地域交流センター「むらさきかん」	7/21~7/25
地域交流センター六ツ美分館「悠紀の里」	7/28~8/1
図書館交流プラザリぶら	8/6~8/17
額田センター「こもれびかん」	8/20~8/25
西部地域交流センター「やはぎかん」	9/2~9/7

2意見整理マンダラート

※マンダラートとは、仏教に由来する曼荼羅模様に由来するアイデアの整理や拡大を図る発想法の一つ。

フォーラム・セミナー	迎賓館	研修・講演会	岡崎の歴史・文化・芸術の拠点	中核市としてふさわしい施設	岡崎の名所・シンボル	地元食材を使ったカフェ・レストラン	お酒落なお店・有名飲食店	ペットを連れて来られる場所
パーティー・レセプション	フォーマル	学会・研究会・国際会議	周辺地域の活性化	アトラクティブ	立ち寄りたくなるお洒落な空間	みんなが休憩できる場所	カジュアル	マルシェ
業界の展示会	就職説明会	発表会	人の流れを生み出す場所	経済の循環を生み、市の基盤を支える場所	観光案内所・土産店	気軽に入れる空間	市民の憩いの場	キャンプ・川あそびで利用できるシャワー
みんなが使える会議室	柔軟に区切れるスペース	作品を展示できる場所	フォーマル	アトラクティブ	カジュアル	屋根のある屋外空間	外とつながったデッキ	まちとつながる空間
勉強に集中できる場所	クローズ	演劇・吹奏楽・合唱の練習場所	クローズ	太陽の城跡地活用	オープン	芝生広場	オープン	開閉式の屋根
企業の使い勝手がよく集客効果のある施設	大雨の時の避難場所	市の歴史、文化、産業を学ぶ施設	インドア	インクルーシブ	アウトドア	キッチンカーを並べるスペース	豊かな自然を活かした庭園	乙川、岡崎城の景色を楽しむ
ギャラリー・美術館	博物館・科学館	図書館・学生の自習室	子供	高齢者	障がい者	アスレチック	グランピング	プール
劇場・コンサートホール	インドア	室内遊戯施設	子育て世帯	インクルーシブ	外国人	ボルダリング	アウトドア	川あそび
プラネタリウム	大学	児童館	市民	観光客	企業	シェアサイクル	遊園地・観覧車	ボードパーク・BMXパーク

アトラクティブ…人目を引くさま。魅力的。

インクルーシブ…一体となって。包括的。

基本方向

現行計画のアップグレード

いただいた意見の多くは、

『 コンベンションだけではもったいない。
特別な利用ができるだけでなく、
子どもや高齢者、障がいをお持ちの方など、
あらゆる方が日常的に利用できる場所であって欲しい。』



施設いわゆるハード整備が無くても、
プログラムや簡単な備品等いわゆるソフトで叶えられるものも多い。

これらを踏まえ、
現行計画を前提とした上で、市民意見を反映した柔軟な活用ができるよう、
現行計画のアップグレード※を図ります。

※アップグレード…ハードウェア／ソフトウェアを拡張し、新機能などが実現されること。
基本の部分も含めてその機能や性能を向上させること。

まち・ひと・かわを結ぶ交流拠点

- ① **コンベンション機能を活かした観光産業都市の創造**
仕事づくり、仕事交流、経済・学術・文化等の交流を推進
コンベンション施設等を活用した「MICE」※の取組みを推進
- ② **仕事・暮らし・健幸を応援する生きがい交流空間の創造**
本市に関わる様々な人々の仕事・暮らし・健幸を応援
コンベンション施設等の特長を生かして、都市の魅力を向上
- ③ **乙川エリアの価値を高める魅力的な都市の創造**
コンベンション施設等の整備効果により乙川エリア全体を価値向上
市民・民間・行政等の多様な主体が活躍する公民連携による都市経営

※MICE(マイス)とは、国際的な会議や学会、見本市などの総称。

Meeting(会議)、Incentive travel(報奨旅行)、Convention(国際会議)、Exhibition(展示会)の頭文字。
観光よりも滞在時間が長く経済効果が高いとされている。

基本方向

現行計画のアップグレード

現行計画

+

1

1年365日賑わいを創出する場づくり

+

2

水と緑の河川空間や本市固有の歴史文化と一体となった整備(岡崎ならでの演出)

+

3

子どもから高齢者まで誰もが居心地の良い空間づくり(まちなかオアシス)

+

4

リアルとバーチャルの融合によるハイブリッド型

+

5

まちと川と山が繋がる持続可能なまちづくりの象徴(SDGs先進都市の模範となる場)

1 1年365日賑わいを創出する場づくり

コンベンション機能に加えて※

誰もが日常的に使えるような機能を拡張した「ハード整備」と常に賑わいが創出されるような「ソフト事業」の展開。

この両面により、

中心市街地エリアの価値向上を図り、

来訪者だけでなく、子どもや高齢者、全ての市民が、

賑わいの創出の一翼を担うことで地域活性化に繋がっていきます。

※現行計画では、コンベンションの最低稼働は、年に100回程度と見込んでいました。

2

水と緑の河川空間や本市固有の歴史文化と一体となった整備(岡崎ならではの演出)

地域の特性を活かした、美しく風格ある景観形成を図ります。

【自然・地形】 河川空間が形づくる、『乙川の豊かな水と緑』の自然環境

【歴史・伝統】 本市が誇る、『乙川と岡崎城が織りなす景観』を望む視点場

【文化・暮らし】 市民が憩う、『春の桜や夏の花火などの四季折々の暮らし』の舞台

これらを活かした一体的な施設整備や利用方法を計画することで、他都市では実現できない、岡崎ならではの演出によりオンリーワンのコンベンションを整備します。

3

子どもから高齢者まで 誰もが居心地の良い空間づくり(まちなかオアシス)

全ての人ができる『ユニバーサルデザイン』の視点
市民が愛着の持てる居場所をつくる『プレイス・メイキング』※の視点
ふらっと立ち寄れるような居心地の良い『サード・プレイス』※の視点
を取り入れたインクルーシブな施設※整備を図ります。

※インクルーシブな施設とは、「世代や身体能力の差に関わらず、全ての人ができる施設」をいいます。

※プレイス・メイキングとは、「都市空間の魅力の増進として、賑わいを創出し、居心地を良くすること」をいいます。

※サード・プレイスとは、「家庭(第1の場)でも職場・学校(第2の場)でもない、居心地の良い第3の場所」をいいます。

4 リアルとバーチャルの融合によるハイブリッド型

DX※の推進やコロナ時代に普及したリモート会議のあり方も踏まえつつ、リアルとバーチャルの融合により、コンパクトで使い勝手の良い施設を目指します。
(会場での参加が難しかった遠隔地居住者、障がいのある人々等の参加促進)

※DX(デジタル・トランスフォーメーション) デジタルを効果的に活用し提供ができるよう、ビジネスや組織の活動・内容・仕組みを戦略的、構造的に再構築していくことをいいます。

※技術の進歩は目覚ましいですが、数年でそれらをバーチャルで提供できる範囲は極めて限定的であり、より長期的にみても完全にバーチャルに取って代わることはないと考えています。リアルには、「偶発性」「体験性」「縦覧性」「没入感」といった、バーチャルでは代替が難しい確かな価値があります。

5

まちと川と山が繋がる持続可能なまちづくりの象徴 (SDGs先進都市の模範となる場)

世界規模でSDGsが提唱されるなか、
まち(都市部)と山(中山間部)が川で繋がる一体のものとして意識され、
市民の暮らしや営みに根差しているこの場所は、暮らしの豊かさを実現しつつ、
地域や国、さらには地球全体にその価値を発信できる可能性を持っています。
このコンセプトが、施設全体から波及するよう、
素材や機能、動線にも配慮した整備を図ります。

まちと山を繋ぐ河川空間の活用や、
中心市街地での一連の取組が有機的に繋がるコンテンツであふれ、
市民が主体的に行動する空間とすることで、
50年後、100年後の未来につながる場を目指します。

主な施設イメージ

現行計画

アップグレード(市民利用拡張)

催事・バンケットホール

[想定利用目的]

会議、式典、研修会、講演会、商談会、見本市、懇談会、交流会、レセプション、パーティー、宴席、披露宴、食事会等

[想定利用人数]

最大1,000人

[施設規模等]

1,200㎡

分割利用時／バンケット※ホール 700㎡

[想定利用人数]

円卓利用300人・立食利用500人

※宴会を開いて人をもてなすこと

+

屋内空間

700㎡ ※

バーチャル技術を活かした科学学習、コンサート、室内遊戯施設、図書室、作品展示、観光PR等

分割利用時／催事ホール 500㎡

[想定利用人数]

机・椅子利用300人・椅子利用500人

+

大屋根の半屋外空間 500㎡ ※

アスレチック、ボルダリング、芝生広場、マルシェ、休憩、飲食等

会議室

[想定利用目的]

上記利用者が分散して参加する会議、研修会、食事会等

[想定利用人数]

机・椅子利用300人

[施設規模等]

600㎡

+

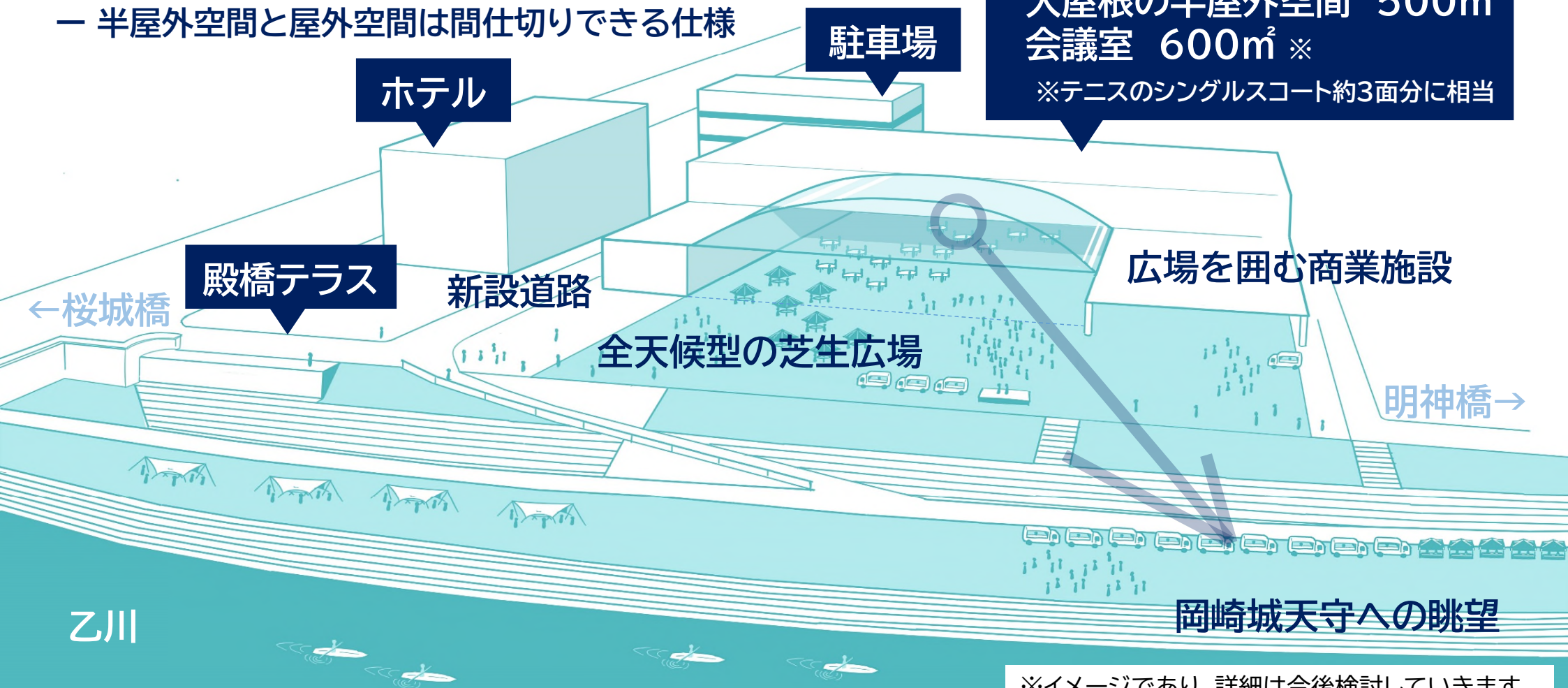
市民団体会議、作品展示・ギャラリー、自習室、演劇・演奏・合唱の練習等

※広さは案であり、今後検討していきます。

(仮称)おかざき乙川リバーフロント交流拠点

- 乙川の河岸段丘と調和する段状の建物形状
- 屋内空間と半屋外空間は間仕切りできる仕様
- 半屋外空間と屋外空間は間仕切りできる仕様

コンベンション
屋内空間 700㎡
大屋根の半屋外空間 500㎡
会議室 600㎡ ※
※テニスのシングルスコート約3面分に相当



※イメージであり、詳細は今後検討していきます。



東京ミッドタウン
(東京都港区)

高層ビルの中庭に見立てた空間に、大屋根を設けて休憩スポットとしており、心地良い立ち寄り所にもなっています。



アオーレ長岡
(新潟県長岡市)

市役所庁舎などの建物を集積し、外庭に大屋根を設けて広大なロビーに見立てて多目的な利用ができるようになっています。



ヴィブラフォト 浅田美浩

奈良県コンベンションセンター
(奈良県奈良市)

コンベンション施設と観光振興施設との間には、半屋外の広場があり、屋外ならではの開放感あふれるイベントが開催可能となっています。

会議利用シーン(間仕切りオープン時)

様々な図表等を
画面に表示

遠方の人も
リモート参加

岡崎城天守への眺め

※イメージであり、詳細は今後検討していきます。

市民利用シーン(間仕切りオープン時)

パブリック
ビューイング

全天候型の広場

岡崎城天守への眺め

キッチンカー等による
軽食の提供

脱着式の
アスレチックで遊ぶ

机や椅子を動かして
好きな場所で

※イメージであり、詳細は今後検討していきます。

